

FY2025 2Q

2026年3月期 第2四半期決算説明資料

2025年11月14日

品質向上のトータルサポート企業

バルテス・ホールディングス株式会社
(証券コード：4442)

CONTENTS

1.	エグゼクティブサマリ	P.3
2.	第2四半期決算概況	P.10
3.	業績見通し	P.28
4.	生成AIテストツール開発投資方針	P.30
5.	成長戦略（新中期経営計画）	P.33
6.	ソフトウェアテスト事業環境	P.37
7.	自社の強み	P.41
8.	会社概要	P.48

※ 前期3Q以降及び当期1Qの数値は、企業結合会計の暫定的な会計処理から確定後の内容に変更しているため、当期1Qまでに開示した数値と異なります。

1

エグゼクティブサマリ

エグゼクティブサマリ（前年同期比）

	実績	前年同期比	
売上高	過去最高 56.4億円	+11.0% ▲	前年同期比+11.0%の過去最高売上
営業利益	2.6億円	▲12.6%	各事業堅調に拡大し売上総利益率増加 AI投資計画等の影響で販管費増加も、 営業利益は計画通り
親会社株主に 帰属する中間純利益	1.4億円	▲33.7%	
単価 (ソフトウェアテスト)	過去最高 832千円	+50千円 ▲	単価は前年同期比で増加
案件数	過去最高 3,485件	+1,028件 ▲	総案件数は順調に増加 (内、ツール案件数は前年同期比+462件)
稼働エンジニア数 (2025年9月末時点)	過去最高 1,279名	正社員 +2名 ▲	正社員はほぼ前年並み、ビジネスパート ナーの増加で受注増をカバーしつつ、 売上を拡大
		正社員,契約社員,BP 合計 +116名 ▲	

「生成AIテストツール開発への積極投資方針」に基づき、 2Q以降（主に下半期）以下対象※1へ
年計 4 億円 の投資を見込む

投資対象

01 生成AIテストツール開発

02 生成AIテストツールの
マーケティング強化

03 AI人材を含むハイクラス
人材の採用強化

	FY2024 実績※3		上期実績	FY2025 予想			
	(百万円)	売上高比 (%)	進捗率 (%)	(百万円)	売上高比 (%)	対FY2024 増減 (百万円)	対FY2024 (%)
売上高	10,795	100.0	47.0	12,000	100.0	+1,204	+11.2
営業利益	940	8.7	41.4	650	5.4	△290	△30.9
(参考) AI投資前営業利益	940	8.7	—	1,050	8.8	+109	+11.6
EBITDA ※2	1,182	11.0	—	930	7.8	△252	△21.3
経常利益	944	8.7	—	647	5.4	△297	△31.5
親会社株主に 帰属する当期純利益	589	5.5	—	390	3.3	△199	△33.8
1株当たり 当期純利益 (円)	29.23	—	—	19.69	—	—	—

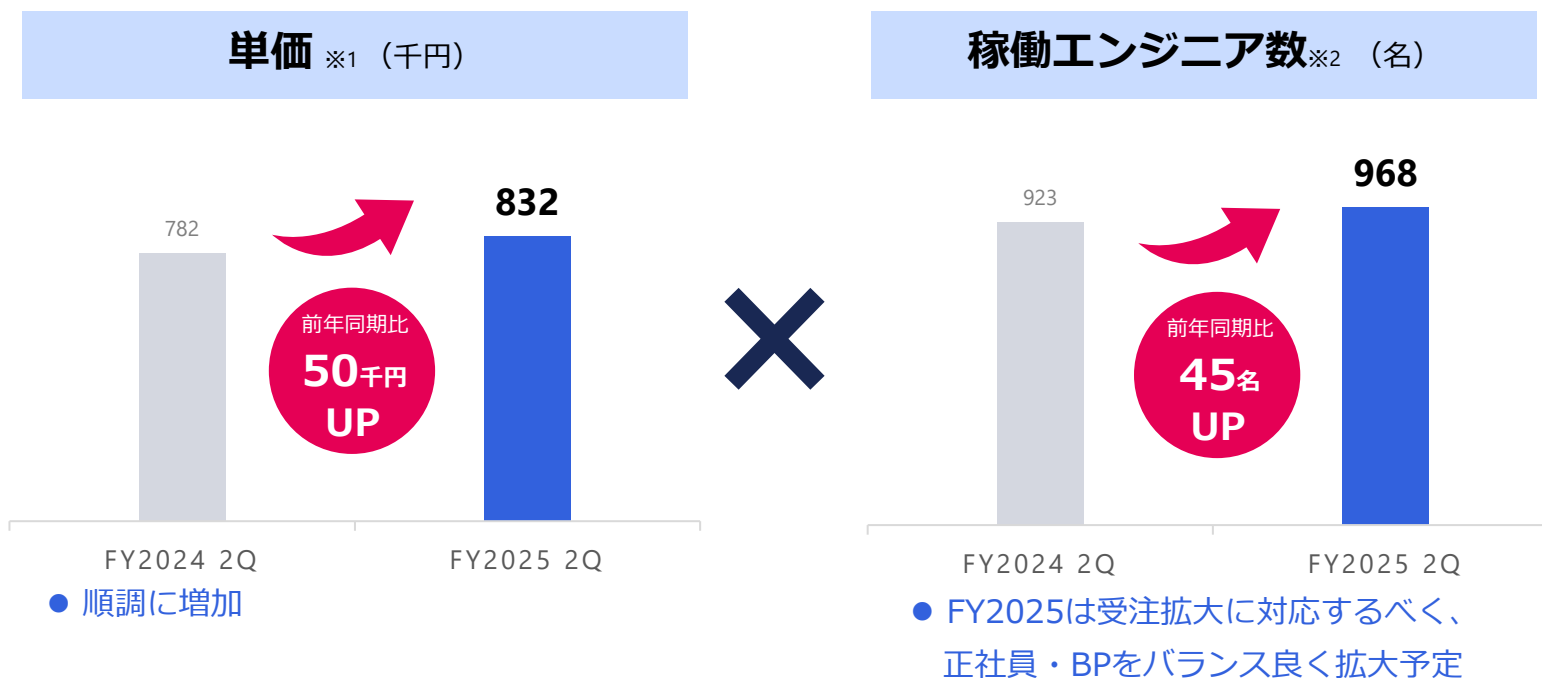
※1 PM層/ハイレイヤー及び営業人員不足によるボトルネック解消施策投資を含む

※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費（PPA含む）で算出

※3 企業結合会計の暫定的な会計処理から確定後の内容に変更せず、発表時のままの記載とさせていただきます

業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報や予測等に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想値と大きく異なる可能性があります。

単価、稼働エンジニア数共に順調に増加

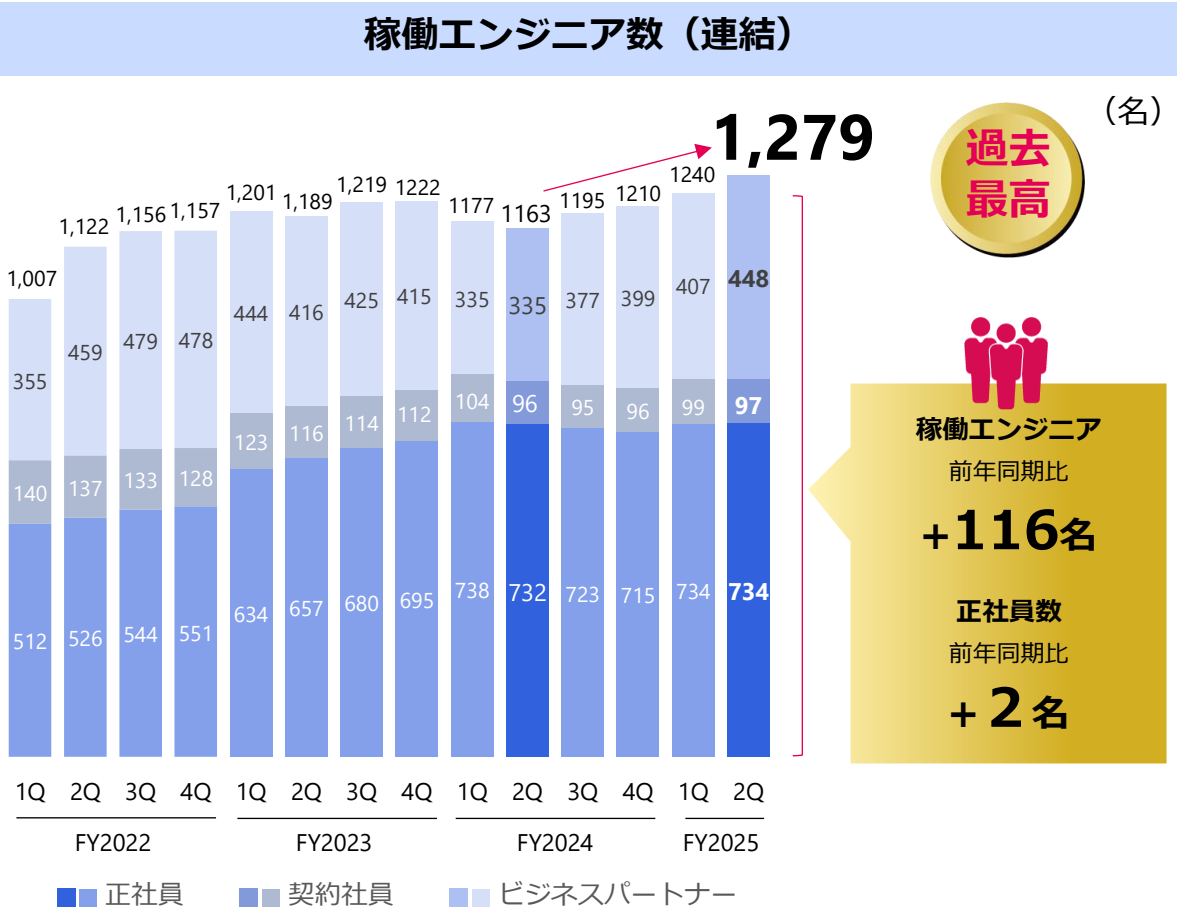
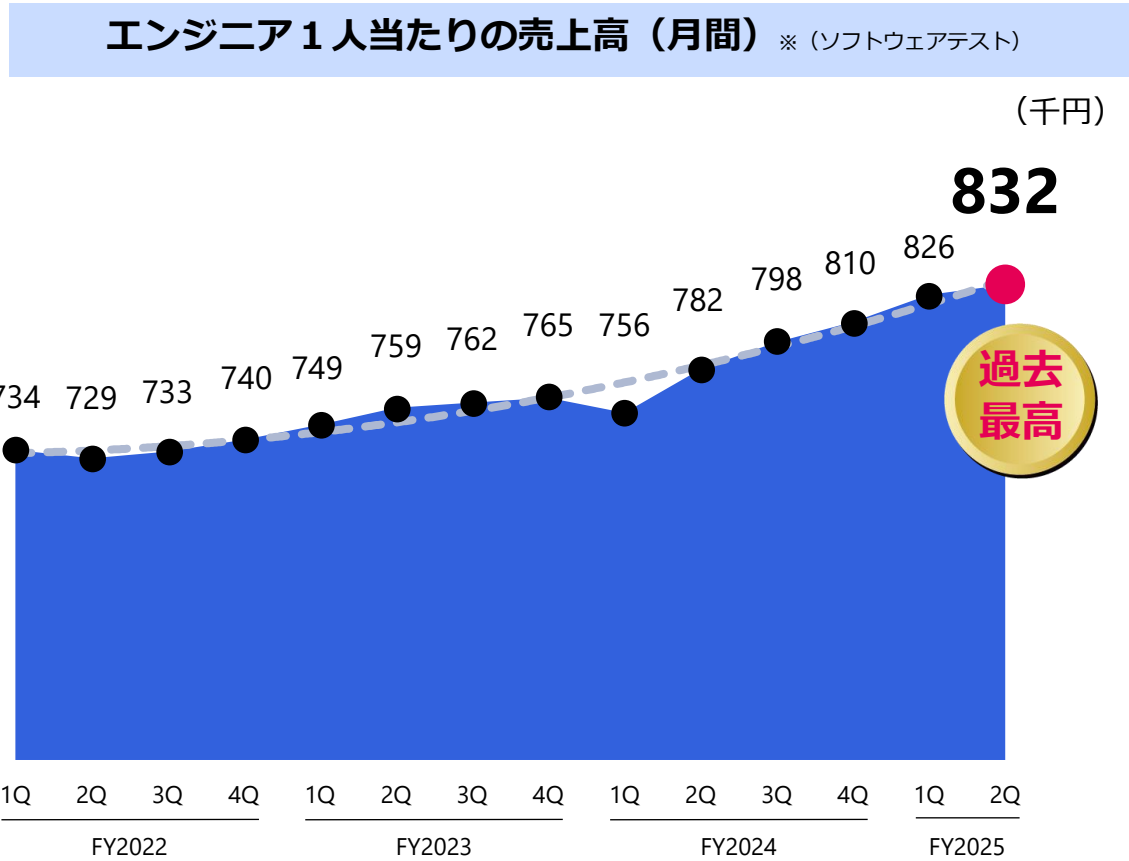


※1 単価（月間）＝ 国内ソフトウェアテストセグメントの売上高 ÷ 国内エンジニア数の延べ人数（正社員＋契約社員＋ビジネスパートナー）

※2 本項記載の数値に関しては、国内ソフトウェアテストのみの集計となるため、本資料のエグゼクティブサマリー記載の「稼働人員数」の数値とは異なります。

単価の推移（ソフトウェアテスト）、稼働エンジニア数の推移（連結）

単価**832千円**、エンジニア数**1,279名**、更なる成長へ向け稼働エンジニア数を順調に**拡大**



※ エンジニア1人当たりの売上高（月間）＝
ソフトウェアテストの売上高 ÷ エンジニア数の延べ人数（正社員+契約社員+ビジネスパートナー）



解析AIツール「QuintSpect（クインスペクト）」の提供開始

- ・ドキュメントのスコアリング・改善提案をおこなう解析AIツール
「**QuintSpect（クインスペクト）**」を2025年10月20日に**提供開始**



重要インフラ等で表彰を受け、高い技術力を証明

- ・首都高速道路社及び西日本旅客鉄道社より**表彰**



「ホワイト企業認定」プラチナランクを3年連続取得

- ・安心して働ける環境づくりと持続的成長が**評価**されプラチナランクを**3年連続取得**



ツールビジネス好調

- ・前年同期比**220%**の**+462件**獲得

当期売上高の順調な拡大から、本施策は概ね達成されたと判断し
本中間決算で最終のご報告とさせていただきます

ボトルネック 成長阻害要因

ボトル
ネック
01

PM層/ハイレイヤー等の
PJ推進人材不足

ボトルネック解消施策

▶ 組織新設・採用強化

PM層/ハイレイヤー採用に適した独立組織をホールディングス内に
新設

▶ ハイスکیل教育制度構築

PM層/ハイレイヤー拡大のための教育制度の構築

▶ グループ内教育・ローテーション

自社グループ内のPM層/ハイレイヤーをグループ内ローテーショ
ンにより活用

ボトル
ネック
02

営業人員の離脱・不足による
営業キーマンの負担増

▶ 営業人員採用

営業人員の増強による営業効率の適正化を図る

施策進捗状況 2025年11月時点

▶ PM層 /ハイレイヤー 増加実績

+ **1** 人

(※ 2025年5月14日の前期決算
発表時対比 11月14日現在)

(参考) + **18**人
(2023年12月末～2025年5月14日累計)

▶ 営業人員増加実績

+ **5** 人

(※ 2025年5月14日の前期決算
発表時対比 11月14日現在)

(参考) + **18**人
(2023年12月末～2025年5月14日累計)

※前期決算発表時の2025年5月14日との比較に変更いたしました。

2

第 2 四半期決算概況

ボトルネック解消施策の効果により、案件数は増加傾向、売上高は過去最高となった。
AI投資等の影響で販管費は増加するも、営業利益は計画通り。

	FY2024 2Q累計		FY2025 2Q累計			
	(百万円)	売上高比 (%)	(百万円)	売上高比 (%)	前年増減 (百万円)	前年同期比 (%)
売上高	5,083	100.0	5,641	100.0	+557	+11.0
営業利益	308	6.1	269	4.8	▲38	▲12.6
EBITDA ※	408	8.0	406	7.2	▲2	▲0.7
経常利益	306	6.0	263	4.7	▲42	▲14.0
親会社株主に 帰属する中間純利益	213	4.2	141	2.5	▲71	▲33.7
1株当たり四半期純利益 (円)	10.58	-	7.12	-	-	-

※ EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費で算出

売上高、営業利益 四半期推移（会計期間）

売上高

ボトルネック解消施策の効果により案件数は増加傾向、第2四半期売上高としては過去最高となった

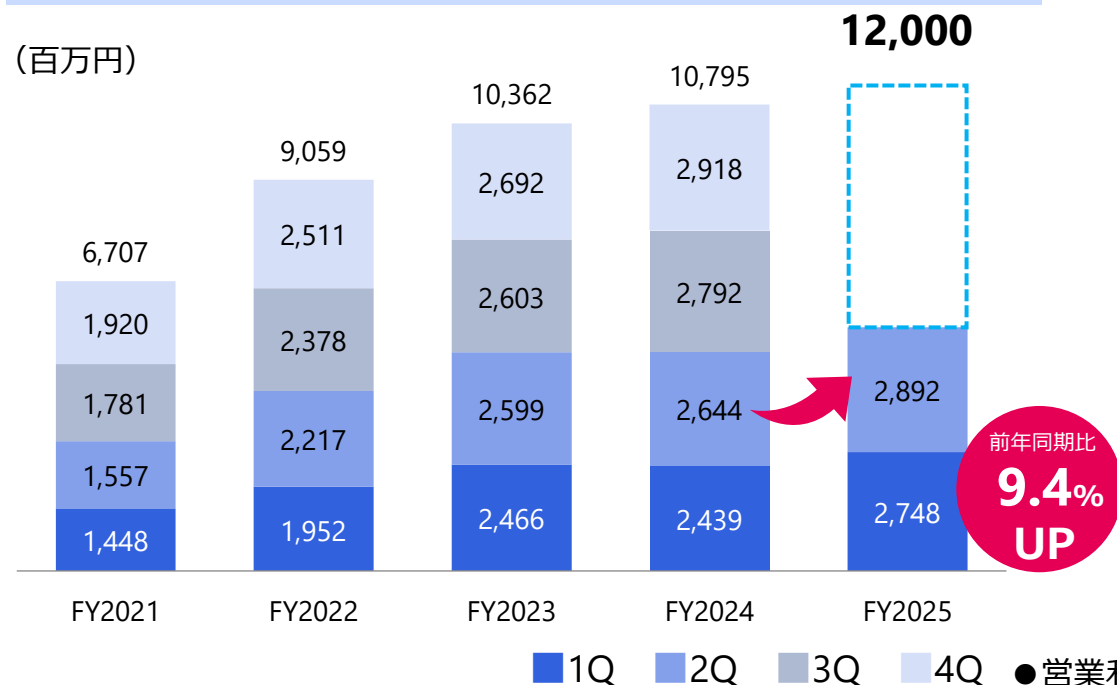
営業利益

各事業堅調に事業拡大し売上総利益率は前年同期比で増加

AI投資やWEBサイト再構築等の影響で販管費増加するも営業利益は計画通り

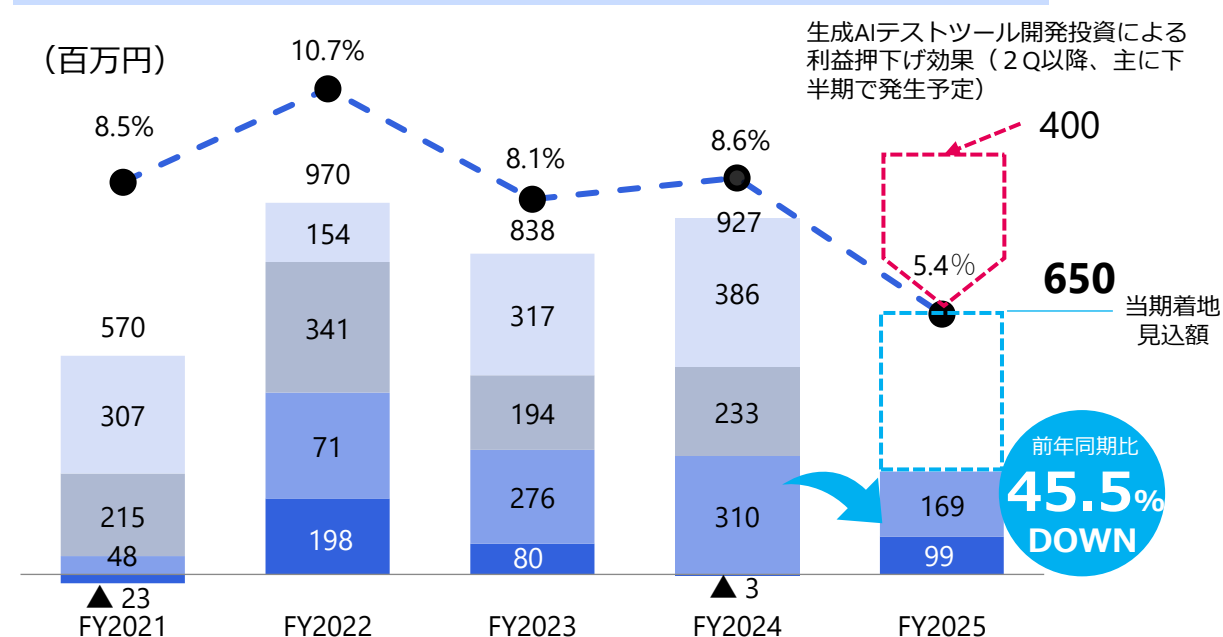
売上高

(百万円)



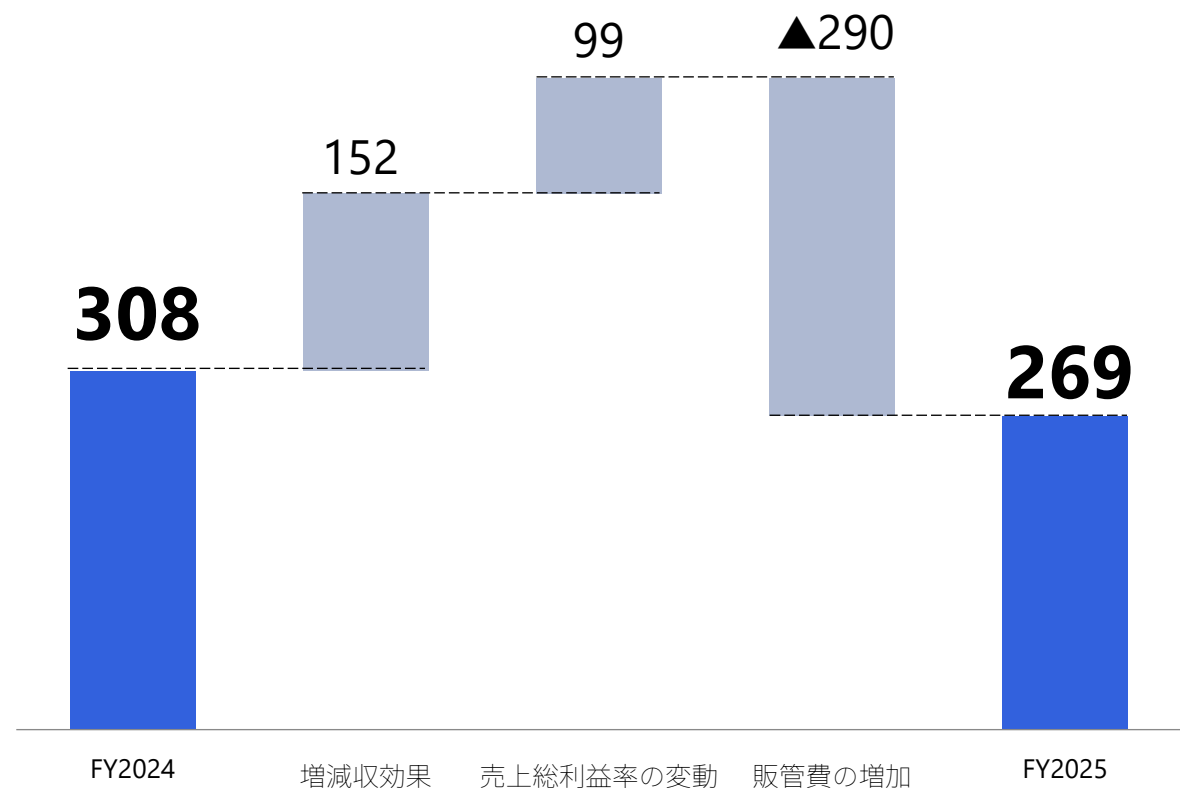
営業利益

(百万円)



各事業好調、生成AI投資等が計画通り推移した影響で営業利益は269百万円となった

(百万円)



増減収効果	ソフトウェアテスト +126 開発 +17 セキュリティ +8
+152	
売上総利益率の変動	ソフトウェアテスト事業においては、本業の利益率好調も、ツールのリリースに伴う償却開始や東京本社増床等、労務コスト以外の原価が増加。一方開発事業はタビュラ社グループインの影響もあり大幅改善
+99	ソフトウェアテスト ▲22 開発 +111 セキュリティ +9
販管費の変動	資産計上していたAI開発コストの費用化、株主優待コスト、WEBサイト環境構築費等その他販管費が増加も計画通り
▲290	人件費 ▲14 採用費 ▲12 研究開発費 ▲55 その他 ▲207

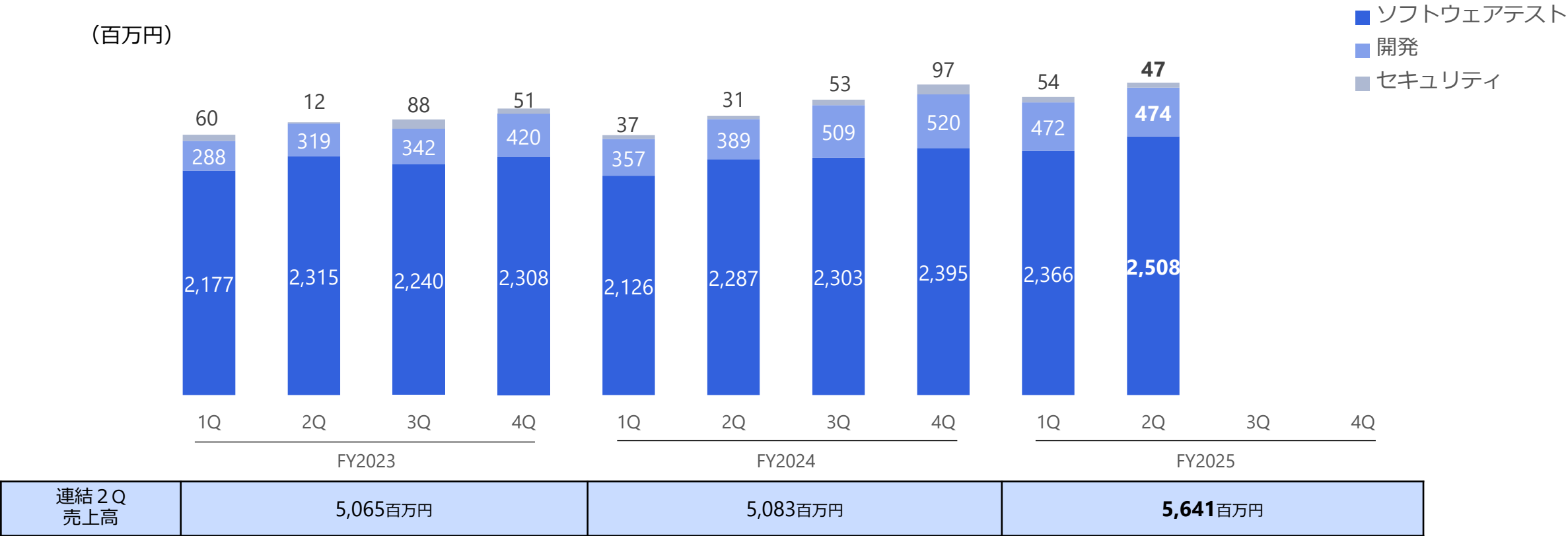
組織拡大に伴う人件費、採用費増加及び研究開発費の増加は計画通り
タビュラ社ののれん償却費、株主優待コスト、WEBサイト環境構築費等その他販管費が大きく
増加したことで販管費290百万円増

	FY2024 2Q単 (百万円)	FY2025 2Q単 (百万円)	FY2024 2Q累計 (百万円)	FY2025 2Q累計		
				(百万円)	前年増減 (百万円)	前年同期比 (%)
販管費	500	695	1,085	1,375	+290	+26.8
人件費	236	224	469	484	+14	+3.2
採用費	48	66	139	152	+12	+9.1
研究開発費	14	68	35	90	+55	+156.5
その他	200	335	440	648	+207	+47.1

人件費	+14	組織拡大に伴う増加
採用費	+12	計画通り
研究開発費	+55	資産計上していた 生成AI投資コストを 研究開発費として振替
その他	+207	タビュラ社グループイン によるのれん償却、 株主優待コスト、 WEBサイト環境構築、 派遣社員コスト

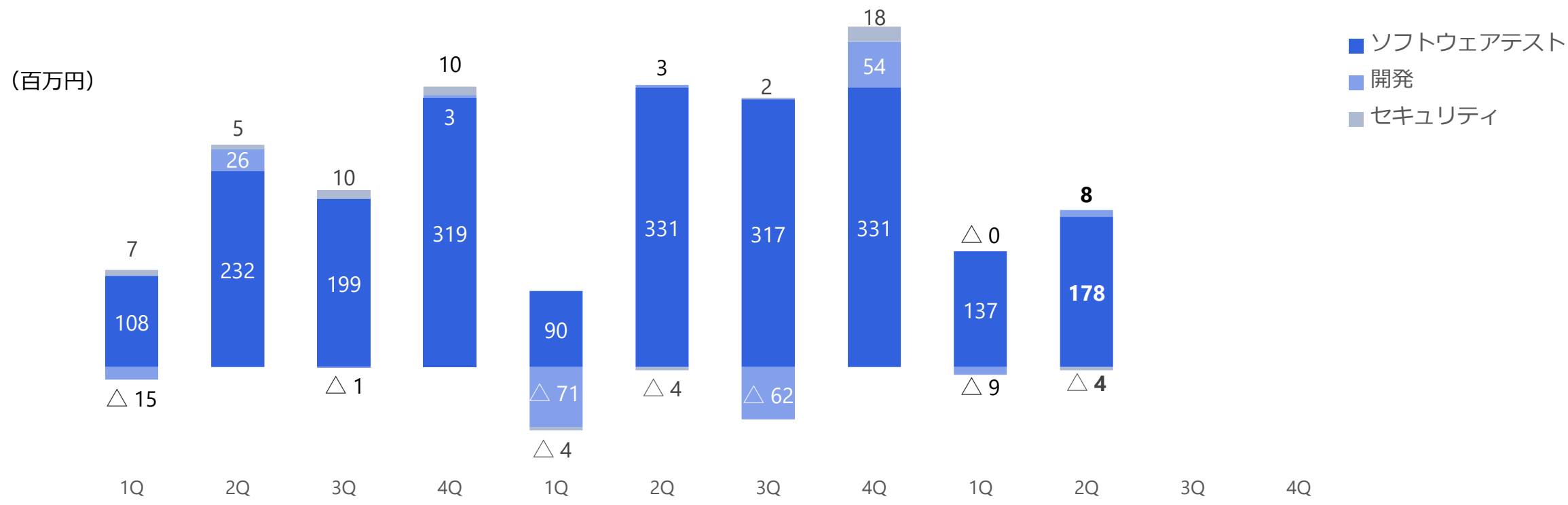
	FY2024 2Q累計		FY2025 2Q累計			
	実績 (百万円)	利益率 (%)	実績 (百万円)	利益率 (%)	前年同期比 (%)	(pt)
売上高	5,083		5,641		+11.0	
ソフトウェアテスト	4,413		4,875		+10.5	
開発	747		946		+26.7	
セキュリティ	68		102		+48.4	
連結消去	▲146		▲283			
営業利益（利益率）	308	(6.1)	269	(4.8)	▲12.6	(▲1.3)
ソフトウェアテスト	422	(9.6)	316	(6.5)	▲25.2	(▲3.1)
開発	▲67	(▲9.0)	▲1	(▲0.2)	-	(+8.8)
セキュリティ	▲9	(▲13.1)	▲4	(▲4.8)	-	(+8.3)
連結消去	▲37		▲40			

各セグメント 前年同期に比べて順調に売上増加、連結 2 Q売上高は過去最高



※ 株式会社シンフォーをFY2023 1Qより、フェアネスコンサルティング株式会社(現バルテス・イノベーションズ株式会社に吸収合併)をFY2023 3Qより、
タビュラ株式会社をFY2024 3Qより新規連結しております。
※ 各セグメント売上の合計からセグメント間取引消去を調整するため、3セグメントの合計と連結売上高は異なります。

AI投資増加等により、ソフトウェアテスト事業は計画通り



	FY2023	FY2024	FY2025
連結2Q 営業利益	326百万円	308百万円	269百万円

※ 株式会社シンフォーをFY2023 1Qより、フェアネスコンサルティング株式会社(現バルテス・イノベーションズ株式会社に吸収合併)をFY2023 3Qより、タビュラ株式会社をFY2024 3Qより新規連結しております。

※ 各セグメント営業利益の合計からセグメント間取引消去を調整するため、3セグメントの合計と連結営業利益は異なります。

※ 前期3Q以降及び当期1Qの数値は、企業結合会計の暫定的な会計処理から確定後の内容に変更しているため、当期1Qまでに開示した数値と異なります。

	FY2024 2Q累計		FY2025 2Q累計			
	実績 (百万円)	売上高比 (%)	実績 (百万円)	売上高比 (%)	前年増減 (百万円)	前年同期比 (%)
売上高	5,083	100.0	5,641	100.0	+557	+11.0
売上原価	3,690	72.6	3,996	70.8	+305	+8.3
労務費	2,343	46.1	2,469	43.8	+125	+5.4
外注費	1,149	22.6	1,301	23.1	+152	+13.2
その他	197	3.9	225	4.0	+27	+14.1
販管費	1,085	21.3	1,375	24.4	+290	+26.8
人件費	469	9.2	484	8.6	+14	+3.2
採用費	139	2.7	152	2.7	+12	+9.1
研究開発費	35	0.7	90	1.6	+55	+156.5
その他	440	8.7	648	11.5	+207	+47.1

バランスシートの状況

資産の部	FY2024	FY2025 2Q末	
	(百万円)	(百万円)	対前期末 (百万円)
現金及び預金	1,937	2,335	+398
売掛金+契約資産	1,697	1,371	▲325
流動資産合計	3,988	3,928	▲60
有形固定資産	285	366	+80
のれん	1,348	1,257	▲91
ソフト+ソフト仮	193	199	+6
無形固定資産合計	1,542	1,457	▲84
投資その他の資産	683	737	+53
固定資産合計	2,511	2,560	+49
資産合計	6,499	6,489	▲10

負債の部	FY2024	FY2025 2Q末	
	(百万円)	(百万円)	対前期末 (百万円)
買掛金	256	279	+23
短期有利子負債	921	1,109	+188
未払金	545	670	+125
流動負債合計	2,560	2,658	+98
長期有利子負債	684	637	▲47
固定負債合計	685	637	▲47
負債合計	3,246	3,296	+50
純資産の部			
株主資本合計	3,241	3,191	▲50
純資産合計	3,253	3,192	▲61
負債純資産合計	6,499	6,489	▲10

ソフトウェアテスト事業

生成AIテストツール開発&実装を
中心に新中期経営計画戦略の実施



生成AIテストツールの
開発&実装で
生産性の向上



自社開発ツールへの
生成AI機能連携で
テスト全行程の自動化



ボトルネック解消
施策の継続

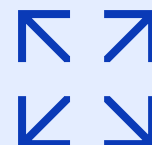
PM層/ハイレイヤー及び
営業人員の採用強化



ツール&教育
人に依存しない
ビジネスの拡大

開発事業

ホールディングス体制の深化
によるグループ間連携の拡充



クロスセル・グループ営業
の強化



M&Aによる顧客課題解決
新技術及び新サービス獲得

セキュリティ事業

セキュリティ対策の
ワンストップサービス



診断員の教育・人員増強



セキュリティサービスの拡充

ドキュメント解析AIツール「QuintSpect（クインスペクト）」提供開始

5つの品質観点でドキュメントを自動診断

2025年10月20日（月）に**解析AIツール「QuintSpect（クインスペクト）」**の提供を開始しました。まずはプロトタイプ版として公開し、利用者のフィードバックをもとに機能を段階的に拡充していく予定です。



■ 「QuintSpect」とは

バルテスがこれまで培ってきたノウハウをもとに開発した、ドキュメント解析AIツール。**正確性・理解性・視覚性・深層性・信頼性**の5つの観点から**スコアリングと改善提案**を自動で実施します。不具合修正は下流工程になるほどコストが跳ね上がるため、上流工程でインスペクションを行うことで**手戻りコストを削減**することが可能です。

■ 主な機能

通常分析



5つの観点で診断し、不備箇所をレーダーチャートで可視化。

矛盾探知

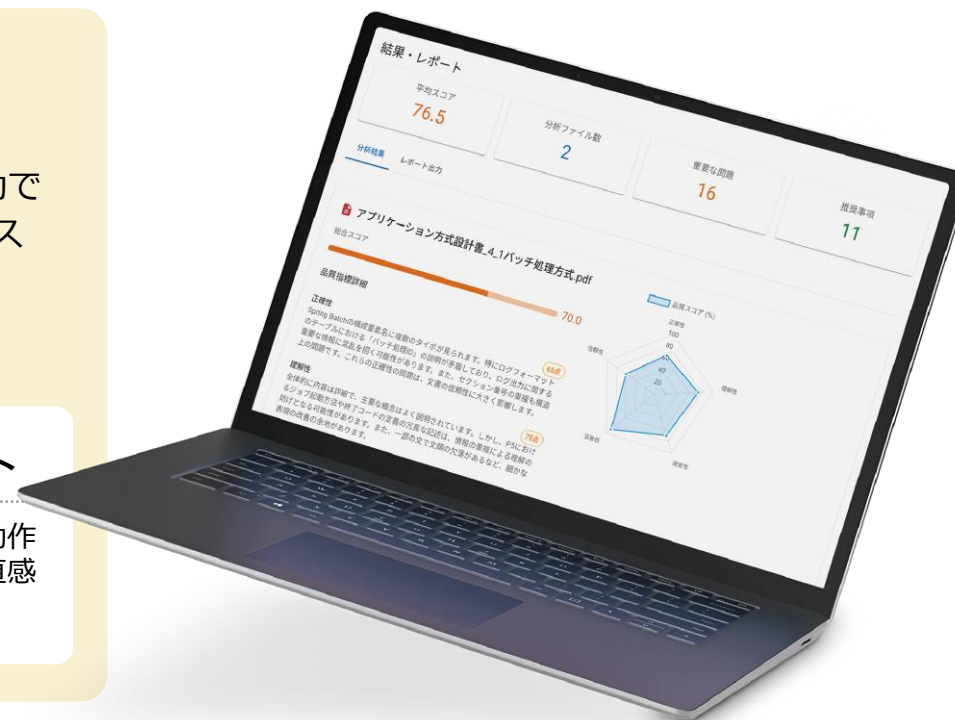


複数ドキュメント間の不整合を自動検出します。

分析結果レポート



品質サマリーを自動作成し、全体傾向を直感的に把握できます。



ETC専用化事業における技術支援対応が評価

首都高速道路株式会社が推進する「ETC専用化事業」への技術支援対応において、同社より**感謝状を授与**されました。

2025年7月、都内5か所で新たに開通したETC専用料金所において、一部システムの調整が必要な箇所が確認され、関係各所による迅速な対応が求められました。

バルテスは、開発ベンダーの改修作業に対し**第三者検証を担当**し、ソースコードの確認やテスト内容の妥当性を短期間で精査。的確な検証と報告を通じ、安定稼働の実現に貢献いたしました。



首都高速道路株式会社



新決済・ウォレットサービス「Wesmo!」のテスト支援が高く評価

2025年8月8日に開催された「JR西日本 パートナー説明会」において、同社が提供する**新決済・ウォレットサービス「Wesmo!」**の**テストフェーズ支援**が事業成長に大きく貢献した点を高く評価いただき、**西日本旅客鉄道株式会社（JR西日本）より感謝状を授与**されました。



■ テストフェーズで支援したサービス



<https://wester.jr-odekake.net/wesmo/>

SocioFuture株式会社が提供する「保証委託申込サービス」において、**金融インフラの信頼性向上を目的としたソフトウェアテストによる品質向上支援**を実施しました。

新サービス「保証委託申込サービス」の開発における再設計が必要となり、**短期間での品質確保**が課題となる中、バルテスの**具体的かつ的確な提案**が評価され、支援を実施しました。

評価していただいたポイント



具体的な提案力

「プロジェクトを理解してくれており、非常に具体的かつ、我々の視点に立った提案をいただきました」



柔軟な対応力

「アジャイルに近い進行の中でも、仕様整理からテスト構築まで対応してくれました」



ツール活用による効率化

「T-DASH・QualityTrackerにより、回帰テスト負荷を軽減することができました」



品質意識の向上

「社内の品質管理体制がさらに進化しました」

SocioFuture
Advanced Technology
& Management Japan

SocioFuture社は、金融に欠かせない社会インフラである ATM の管理・運営で培ったソリューションをさまざまなサービスに活かし、金融・行政・健康の3領域を“ツナグ”信頼性の高いサービスを提供しています。



SocioFuture社の導入事例は当社サービスサイトのこちらからご覧ください。

<https://service.valtes.co.jp/s-test/case/socio-future/>

10/5は「品質カチ取る！テストの日」記念日制定

バルテスは**10月5日**を「品質カチ取る！テストの日」として制定し、一般社団法人日本記念日協会より2025年10月3日に正式に認定されました。本記念日は、ソフトウェアテストの重要性を広く伝え、安心・安全なICT社会の実現に向けて品質向上の取り組みを推進することを目的としています。

日付の由来

テストで用いられる **× (Fail)** と **✓ (Pass)** を数字に置き換え、

× = 10、**✓ = 5** → **10月5日**としました。

また「カチ」という言葉には、以下の3つの意味を含めています。

1. テストを通じて **<価値を創造する>**
2. テストを通じて **<勝ちを掴む>**
3. テストを通じて **<かつちり品質を保証する>**

■ 制定の背景と今後の展望

ソフトウェアやシステムの「テスト」は、品質と信頼を確保するために欠かせない工程です。しかしながら、社会全体ではその価値や役割が十分に認知されていません。今回の制定を通じて、**テストの重要性や品質意識をこれまで以上に広く発信**し、より良い社会づくりに貢献してまいります。

10月**5**日は

品質カチ取る！

テストの日

新基準のくるみん認定&3年連続ホワイト企業認定のプラチナランク

2025年度に**新基準による「くるみん認定」**を取得し、あわせて**「ホワイト企業認定」プラチナランク**を3年連続で取得いたしました。これらの認定は、**社員一人ひとりが安心して働き続けられる環境づくり**と、**柔軟で多様な働き方の推進**が高く評価されたものです。

新基準「くるみん認定」



「くるみん」は、厚生労働省が実施する次世代育成支援対策推進法に基づき、**仕事と子育ての両立支援に積極的に取り組む企業を認定する制度**です。2025年4月から導入された、より厳格な新基準に適合する取り組みが評価されました。

■ 主な取り組み

育児休業の 取得推進

(男女取得実績あり)



フレックス・ テレワーク

による柔軟な働き方



子育てに配慮した 短時間 勤務制度



仕事と 家庭の両立

に向けた啓発



「ホワイト企業認定」プラチナランク



「ホワイト企業認定」は、一般財団法人日本次世代企業普及機構（ホワイト財団）が**企業の働きやすさや健全な経営姿勢を7つの指標で評価する制度**です。当社は2020年度の初認定以来、2023年度より最高位の**プラチナランク**を3年連続で取得しています。

■ 評価されたポイント

柔軟な働き方と 健康経営の推進



社員の成長を支援する 教育・人材 育成制度



法令順守と リスクマネジメント の徹底



サイバーセキュリティファンドによる投資先2件の決定

国産セキュリティ教育クラウドと官公庁向け対策企業へ出資

バルテス・ホールディングス株式会社が参画する**日本サイバーセキュリティファンド1号投資事業有限責任組合（NCSF）**は、以下の**2社への出資**を決定いたしました。



出資・
参画



出資

LRM株式会社

国産セキュリティ教育クラウド「セキュリオ」提供

- 従業員向け教育・標的型メール訓練をクラウドで実施
- 2,200社以上の導入実績で信頼性が高い
- LP企業との連携で事業シナジーを創出



株式会社コンステラセキュリティジャパン

官公庁・防衛領域に強みを持つサイバーセキュリティ企業

- 官公庁や防衛領域向けのセキュリティ支援を提供
- SNS情報操作対策（認知戦）と脅威インテリジェンスに強み
- 国産技術開発とLP企業連携で市場を加速



3

業績見通し

「生成AIテストツール開発への積極投資」等※1へ4億円以上の投資を見込む

投資対象

01 生成AIテストツール開発

02 生成AIテストツールの
マーケティング強化

03 AI人材を含むハイクラス
人材の採用強化

投資対象	FY2024 実績※3		FY2025 予想			
	(百万円)	売上高比 (%)	(百万円)	売上高比 (%)	対FY2024 増減 (百万円)	対FY2024 (%)
売上高	10,795	100.0	12,000	100.0	+1,204	+11.2
営業利益	940	8.7	650	5.4	△290	△30.9
(参考) AI投資前営業利益	940	8.7	1,050	8.8	+109	+11.6
EBITDA ※2	1,182	11.0	930	7.8	△252	△21.3
経常利益	944	8.7	647	5.4	△297	△31.5
親会社株主に 帰属する当期純利益	589	5.5	390	3.3	△199	△33.8
1株当たり 当期純利益（円）	29.23	—	19.69	—	—	—

※1 PM層/ハイレイヤー及び営業人員不足によるボトルネック解消施策投資を含む

※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費（PPA含む）で算出

※3 企業結合会計の暫定的な会計処理から確定後の内容に変更せず、発表時のままの記載とさせていただきます

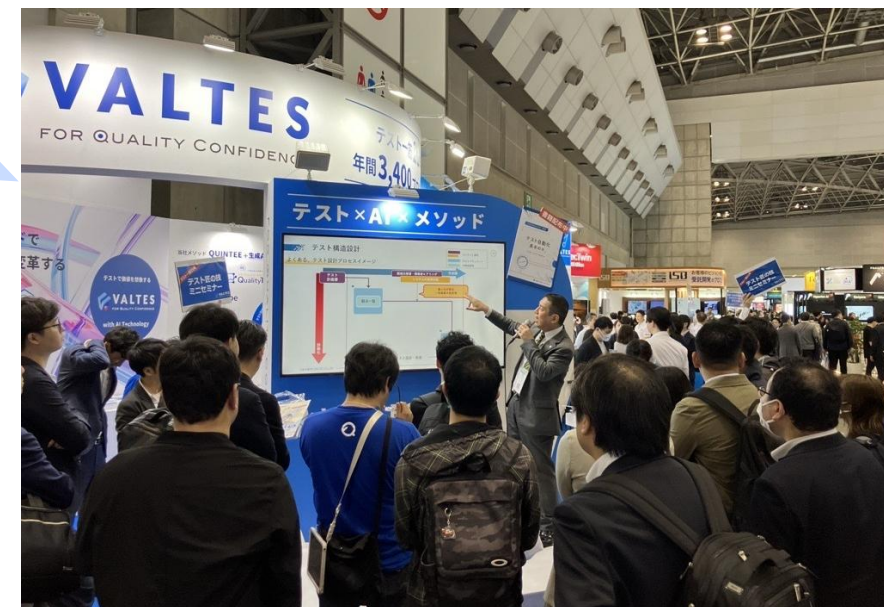
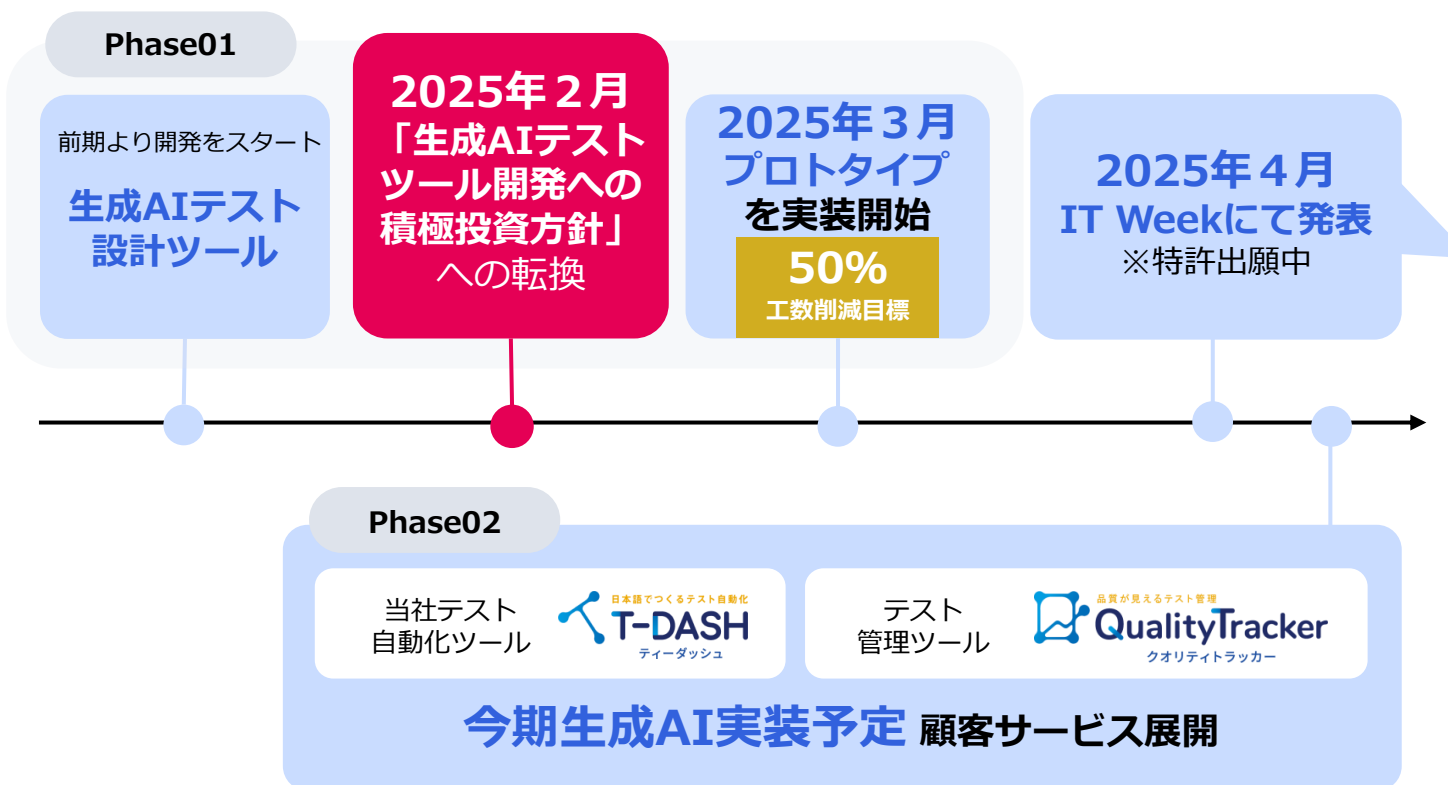
業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報や予測等に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想値と大きく異なる可能性があります。

4

生成AIテストツール開発投資方針

「生成AIテスト設計ツール」 自社開発とAI積極投資方針への転換

生成AIの拡大による事業機会とリスクに対応するため、当社ではいち早く「生成AIテスト設計ツール」開発を進めてまいりました。当社が蓄積した膨大な過去抽出データ※を利用することで、本開発は順調に進捗し、**現段階で既に高い精度に達していることから、本年3月にプロトタイプをローンチし、当社グループでの実装を開始**しております。それに先立ち、本年2月にはこれらの開発加速に向けた「**生成AIテストツール開発への積極投資**」方針への転換を決定しております



当日の**ブース来場者数は過去最高**を記録

※ 生成AIテストツール開発における当社の強みは、テスト専門会社として培った豊富な実績データによって、多様なドメインに対し、より実践的で効果的なテストケースを提供できる点にありますが、本開発においては顧客情報を一切使用せず、当社内のテスト実績データのみを活用しております。



生成AIテストツール開発における当社優位性

優位性 01

▶ **自社開発のテストツール群によりテスト工程全般を網羅（業界随一）**
テスト設計～実行まですべての工程でツールを自社開発、近い将来生成AI連携が可能
当社は既にテスト自動化ツール「T-DASH」をはじめとしたテストツールを自社開発しており、これらのツールに生成AI機能を拡大することで、全てのテスト工程を自動化することが可能です。現時点で、テスト関連ツール群を自社開発しているテスト会社は国内では当社のみであり、国内テスト市場において、大きな優位性を有していると自負しております。

優位性 02

▶ 生成AIテスト設計ツール「TestScape」を先行実装

2025年3月に生成AIテスト設計ツールのプロトタイプ版を実装済

当社は前年より生成AIテスト設計ツールの開発をすすめ、当年2月時点で高い精度に達したことから、3月に社内実装を開始しております。今後は実務領域での同ツール利用を促進することで、生成AI機能の強化を進めてまいります。

優位性 03

▶ ソフトウェアテスト専門事業者として20年にわたる実績

生成AIを利用した開発に必要な専門性の高い情報を大量に保有

当社は年間3000件を超えるテスト設計情報を過去20年間にわたり蓄積しており、「専門性の高い情報を大量に保有」しているため、生成AIの活用に適した状況にあります。



生成AIと描く当社の未来

技術的 未来

ソフトウェアテストの全工程の**自動化**

当社テスト設計からテスト実施まで、すべての工程において生成AI機能を自社ツールに実装し、各ツールの連携をすすめることで、**ソフトウェアテストのすべての工程を自社開発ツールで全自動化することを目指します。**

人的 資本

テストエンジニアから **AI-テストデザインコンサルタント** への成長

当社のテストエンジニアは生成AIテスト設計ツール「TestScape」を始めとした当社開発テストツールとそのAI連携機能の習熟度を高めることで、**顧客の開発案件に対し、生成AIテストツールによるテスト自動化の設計提案とその実行を伴走できる戦略的ディレクター「AI-テストデザインコンサルタント」への成長を目指します。**



成長戦略（新中期経営計画）

生成AIテストツール開発への積極投資方針を従前の中期経営計画に反映したローリングプラン

中計Vision

ソフトウェアテスト市場の社会的価値を高めるバリューアッププラットフォーマーへ

▶ 生成AIテストツール開発投資によって最大事業のソフトウェアテスト事業を「労働集約型ビジネス」から「人に依存しないビジネス化」

Visionコンセプト1.2

コンセプト① バルテス品質を業界へ波及させるビジネスモデルの構築
▶ ソフトウェアテスト業界の社会的価値向上で更なる市場拡大を誘引

コンセプト② 生成AIテストツール開発への積極投資によって
人に依存しないビジネスモデルの強化・拡大
▲コンセプト更新
▶ 人に依存しない事業比率向上でグループの生産性を向上

コンセプトに基づく5つの基本戦略

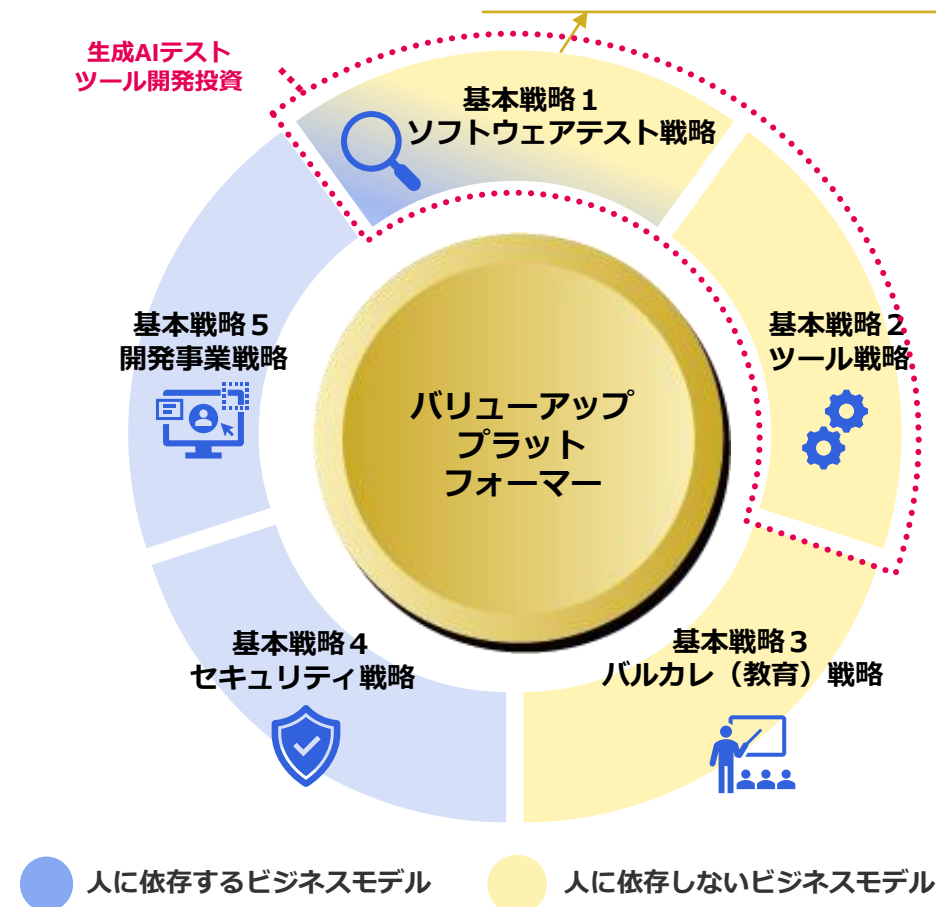
基本戦略1：ソフトウェアテスト戦略 ◀ 生成AIテストツール投資で戦略更新 ◀ ボトルネック解消施策継続

基本戦略2：ツール戦略 ◀ 生成AIテストツール投資で戦略更新

基本戦略3：バルカレ（教育）戦略

基本戦略4：セキュリティ戦略

基本戦略5：開発事業戦略



新中期経営計画 戦略のグランドデザイン 数値目標

▶ 新中期経営計画で内容を更新

新中期経営計画（3か年）

■ 生成AIテストツール投資（3か年）

生成AIテストツール開発投資
各年4億円を目安

3か年計 **12** 億円

■ BS戦略投資（3か年）

主にM&A投資
事業所投資

3か年計 **25** 億円

■ 還元施策

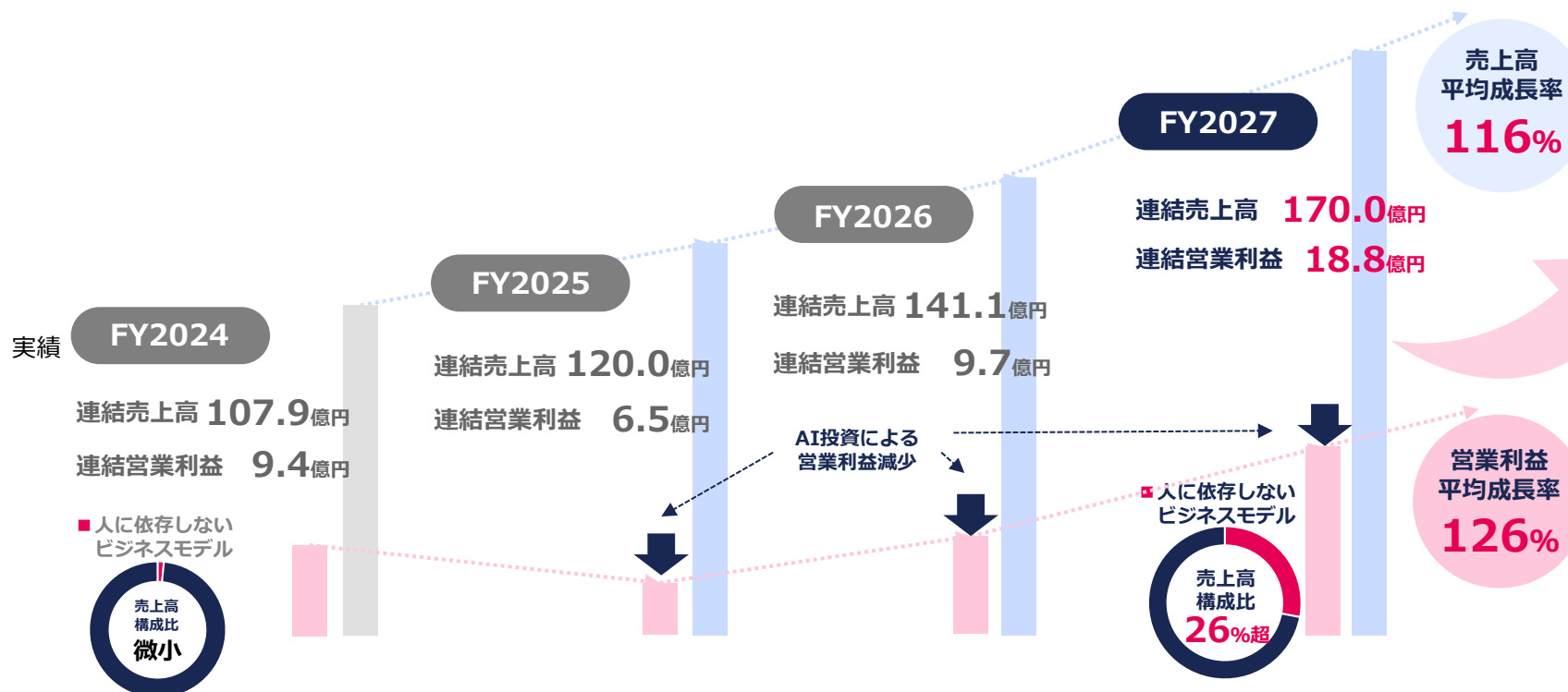
投資優先で成長によるキャピタルゲインで還元

■ 配当

3か年計 **2.4** 億円

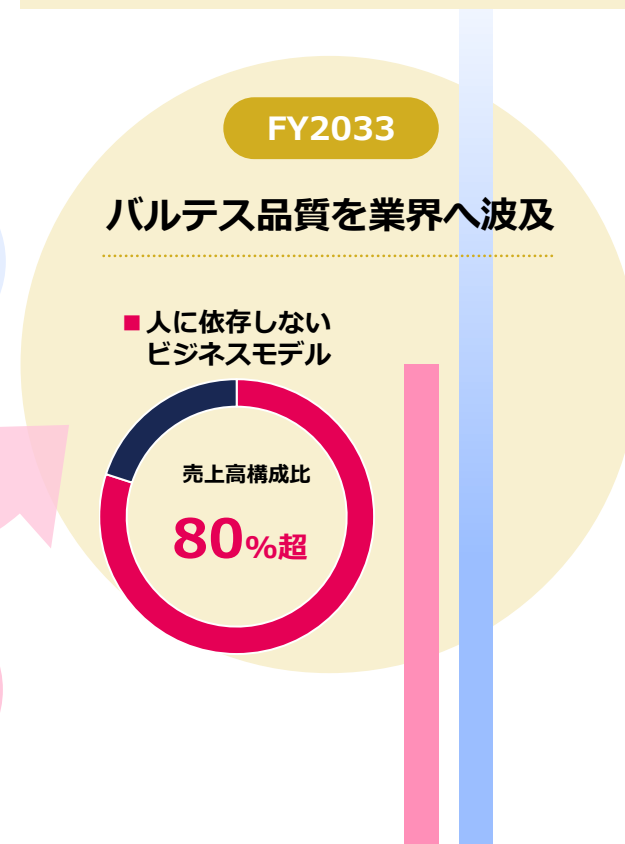
■ AI開発応援・株主優待

3か年計 **2.4** 億円



10年先のVISION

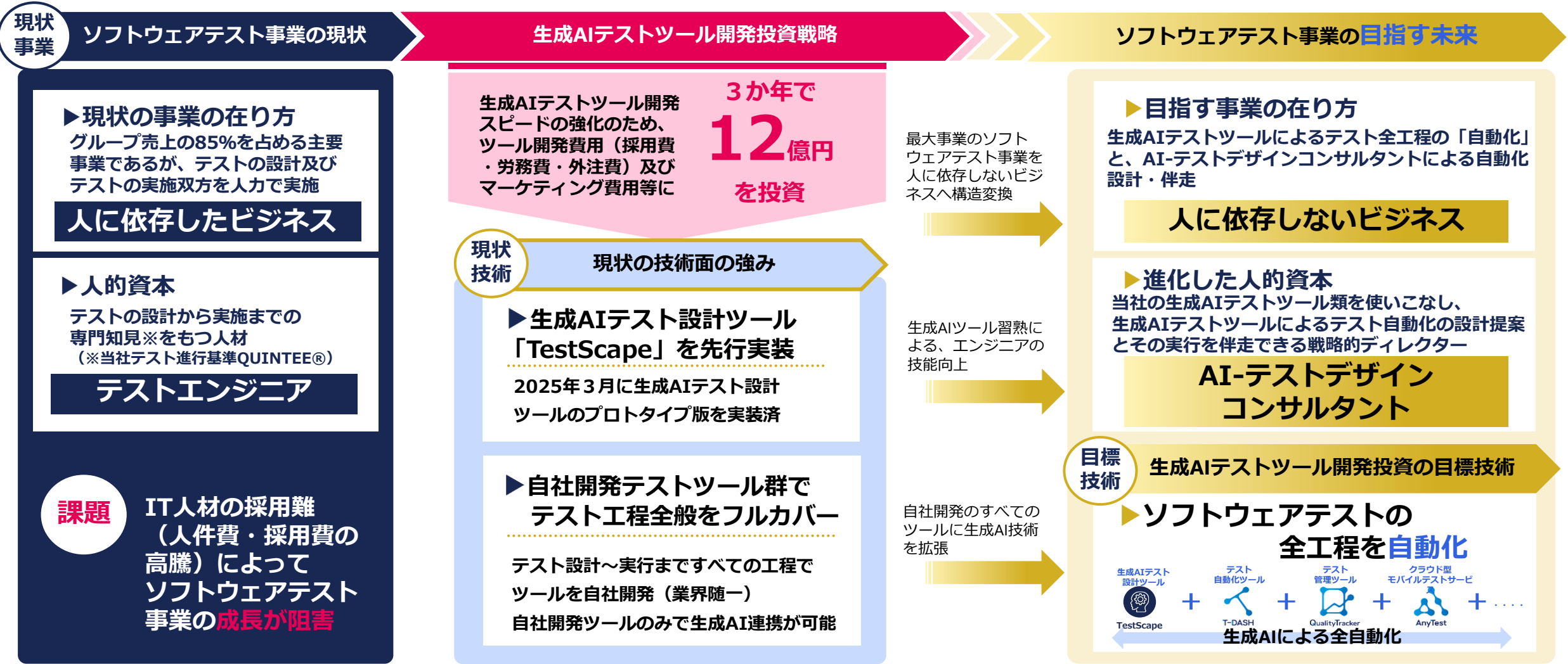
バリューアッププラットフォーム



重点施策「生成AIテストツール開発投資戦略」の骨子

▶ 新中期経営計画で新設

最大事業であるソフトウェアテスト事業の生産性向上と、IT人材の採用難克服で成長を持続

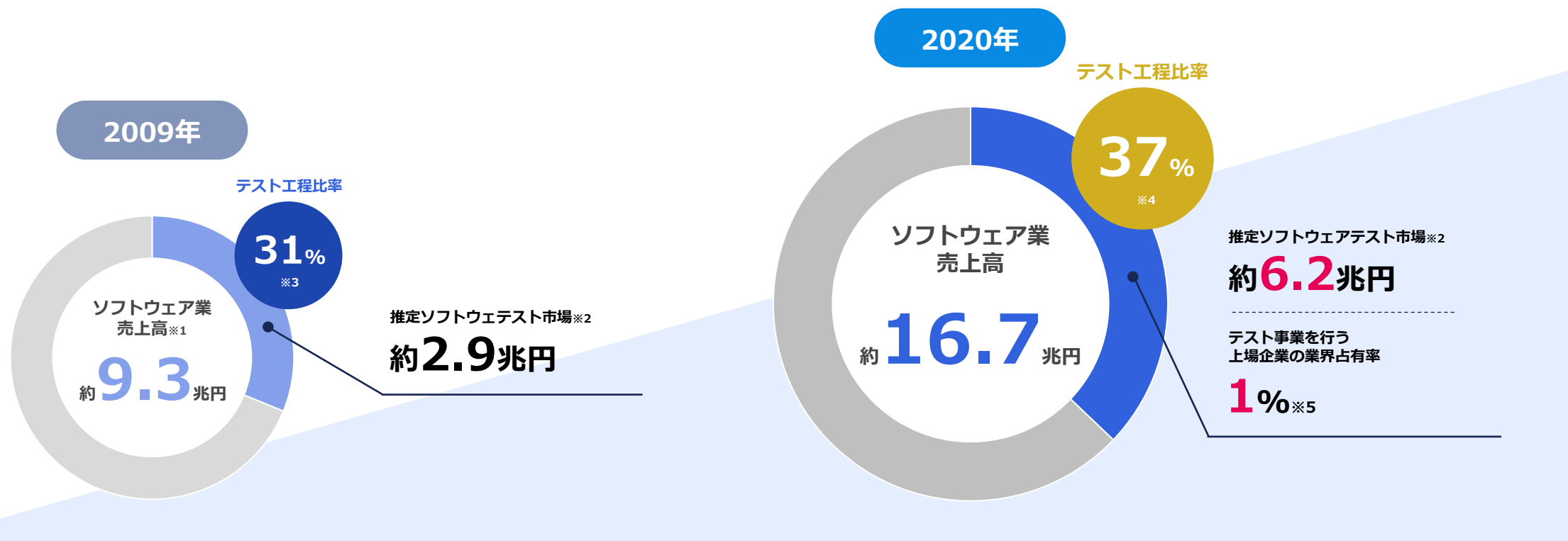


6

ソフトウェアテスト事業環境

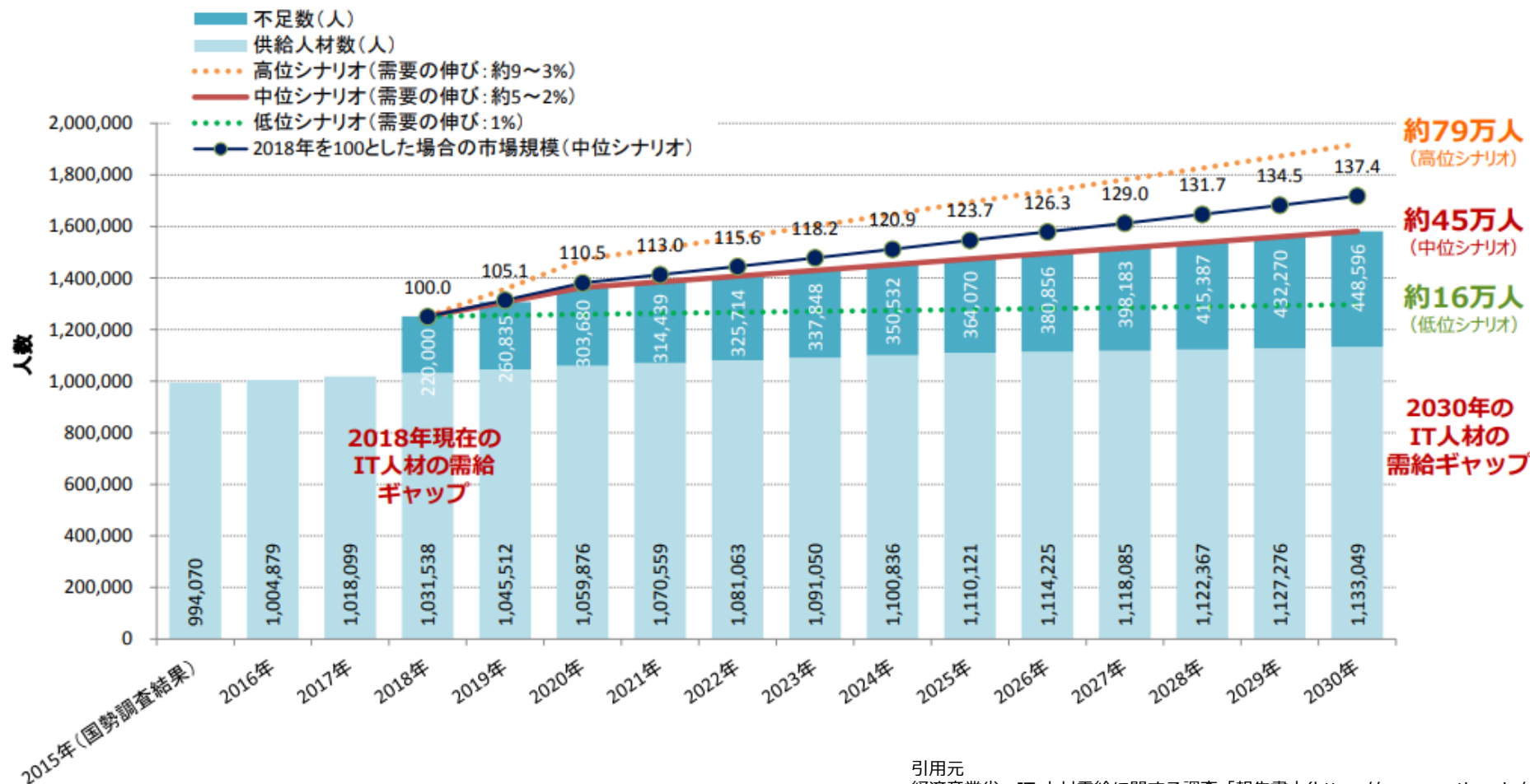
当社が推定する日本のソフトウェアテストの市場規模は約6.2兆円

■ ソフトウェア業売上高に占めるテスト工程比率の推移と市場規模推計



※1 総務省・経済産業省「情報通信業基本調査」より ※2 ソフトウェア業売上高に、テスト工程比率を乗じて算出 ※3 独立行政法人情報処理機構（IPA）「ソフトウェア開発データ白書」より
※4 独立行政法人情報処理機構（IPA）「ソフトウェア開発分析データ集2020」より ※5 テスト・デバック事業をメインとする上場企業の売上合計より

ソフトウェアテスト市場規模拡大の一方、担い手のIT人材は不足

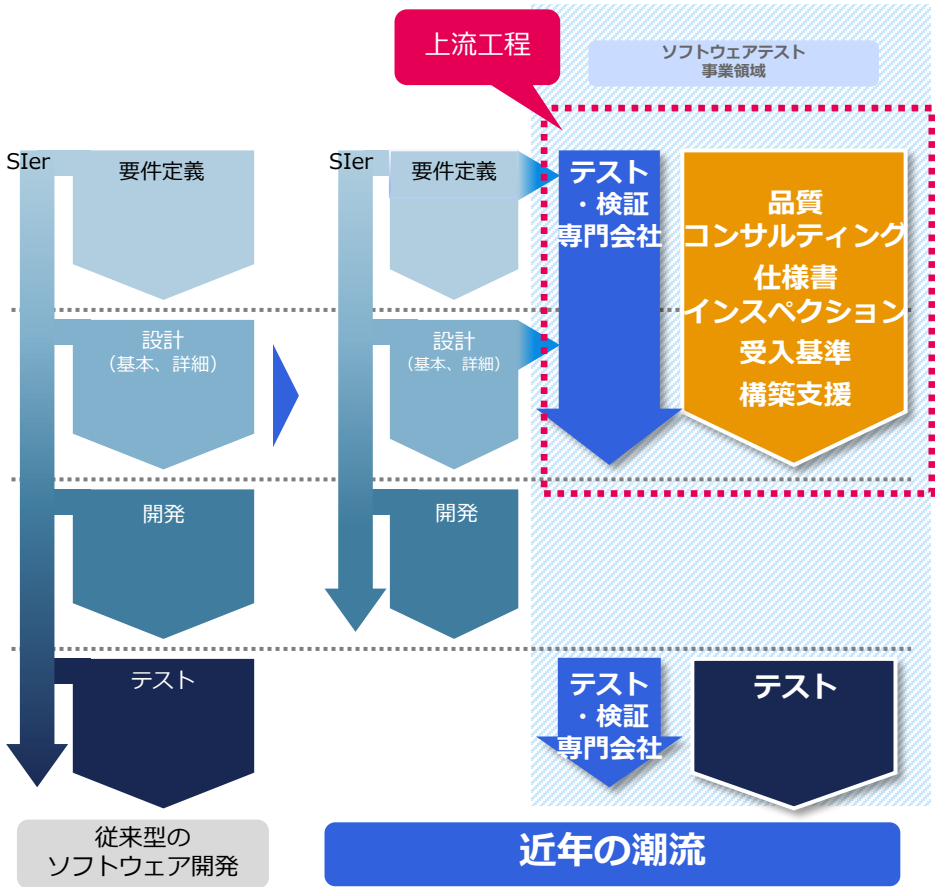


ソフトウェアテスト
専門業者への
需要は増加

引用元
経済産業省 IT 人材需給に関する調査「報告書本(https://www.meti.go.jp/policy/it_policy/jinzai/houkokusyo.pdf)」
図 3-11 IT 人材需給に関する主な試算結果①②③の対比 (生産性上昇率 0.7% IT 需要の伸び「低位」「中位」「高位」)

ソフトウェアテストは開発企業から**テスト専門会社**へ
品質向上を目指すユーザー企業など**上流工程**からの依頼も増加

	開発企業によるテスト	テスト専門会社によるテスト
品質	- テストは開発エンジニアのモチベーションが上がらず非効率 - 開発エンジニア自身のテストは客観性が無く信頼性に欠ける	- 再現性・共有性の高いテスト方法やメソッドを確立 網羅的で高効率なテストが可能 - 上流工程からの参画により、ソフトウェア自体の品質が向上
コスト	コスト高な開発エンジニアの労働時間の約40%がテスト工程	- 開発エンジニアのテスト実施と比べ60%~70%程度※で対応可 ※当社調べ - 上流工程からの参画により、手戻りコストを削減
構造	大手SIerが一括受注し、下請けに開発を発注、その開発エンジニアがテストも実施	- 第三者のテスト専門会社によるテストの有効性が注目 ユーザー企業など上流工程からの依頼も増加





自社の強み

自社の強み① 高スキル テスト専門エンジニアが多数在籍 高難易度なエンタープライズ領域へのナレッジ蓄積



人的・技術的優位性

- ソフトウェアテストに関する専門教育を受けた正社員500名超
- JSTQB※1高保有率
- ISTQB※2 Global Partner 日本初認定
- 年間約4,000※3プロジェクト、1,200社以上の導入実績
- プロジェクトを通じた様々な業界におけるナレッジの蓄積
- 専門技術人材を供給可能な外部協力会社ネットワーク
- ISO/IEC/IEEE 29119※4準拠テンプレート
- QUINTEE®※5（テストの進行基準）

※1 JSTQB(Japan Software Testing Qualifications Board)とは、国内のソフトウェアテスト技術者認定組織のこと
※2 ISTQB(International Software Testing Qualifications Board)とは、世界130カ国のテスト技術者認定組織のこと
※3 ツール案件を含む
※4 ISO/IEC/IEEE 29119とは、ソフトウェアテストの統合的な国際規格のこと。ISO、IEC、IEEEという3つの標準化団体が合同で策定しているため、この名称で呼ばれる
※5 QUINTEE®とは、当社がソフトウェアテストを主軸に、品質向上・生産性向上に関連する知見を体系化したもの

エンタープライズ領域へのナレッジ蓄積

- 潜在市場が大きい、高度な技術を要するエンタープライズ領域拡大のため専門部署を設置
- エンタープライズ領域における専門ナレッジの蓄積

エンタープライズ領域の特長

- 単価：高 案件規模：大 契約期間：長
- 開発、業務知識等、テスト以外の知識を求められる
→ 難易度：高 参入障壁：高
- マイグレーション等※6の増加で市場：拡大 潜在市場：巨大

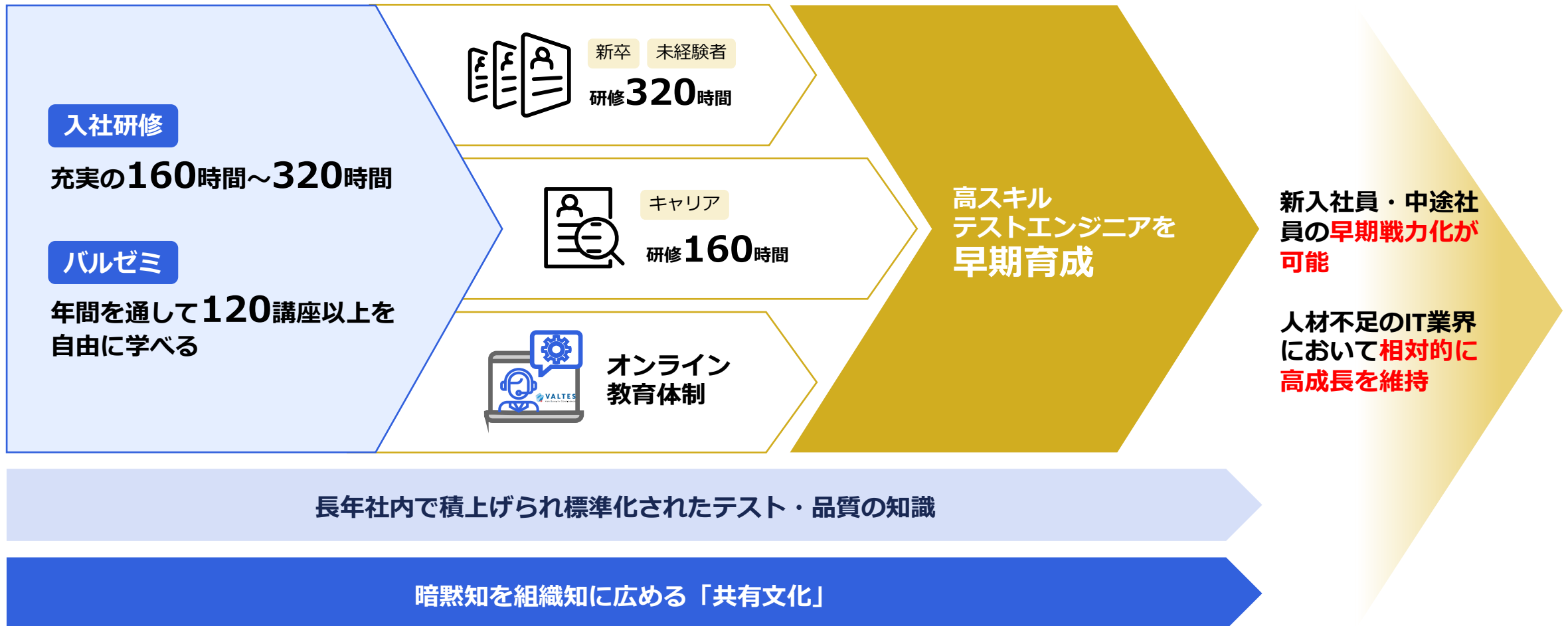
	当社の事業領域	潜在市場規模	市場ステージ	参入障壁
テスト 工程 市場	エンタープライズ	巨大	黎明期	高
	組込み	大	黎明期	高
	Web・スマホ	中	成長期	中
	エンターテインメント	小	成熟期	低

※6 ソフトウェアやハードウェア、システム、データ、開発言語などを別のプラットフォームに移行したり、新しいシステムに切り替えたりすること

専門性の向上によって強固な参入障壁を構築し、価格競争を回避

自社の強み② バルゼミを始めとした人材育成コンテンツ 人材早期育成メソッドの充実

バルゼミを始めとした育成コンテンツ・メソッドの充実で**早期人材育成が可能**



自社の強み③ 要件定義、基本設計等の上流工程から ソフトウェア品質向上支援サービスを提供可能

ソフトウェア開発の全工程で、ソフトウェア品質向上支援サービスを提供



自社の強み④ ソフトウェアテストサービスの実績に基づいた テスト・品質向上支援ツールを自社開発

ソフトウェアテストを効率化し、**高品質とリリースのスピードアップ**を実現

■ テスト自動化ツール



日本語で作成したテストケースで
自動テストを実現したテスト自動化ツール

■ テスト管理ツール



テスト実施に特化した管理ツールEVMによる管理で、
品質向上の見える化を可能に

■ クラウド型モバイルテストサービス



ブラウザ上でスマートフォンの実機を操作。実端末の
購入・保管・移動などの手間を軽減

■ AIテスト設計ツール



弊社独自のAIが仕様書からテストケースを自動生成。
テスト設計書などの中間生成物も自動的に作成

■ ドキュメント解析AIツール



要件定義書などのドキュメントを弊社独自のインスペク
ション観点で分析。AIが問題点や改善点をレポート

顧客・業界に
**品質向上及び
開発短期化メリット
を提供**

Coming soon . . .

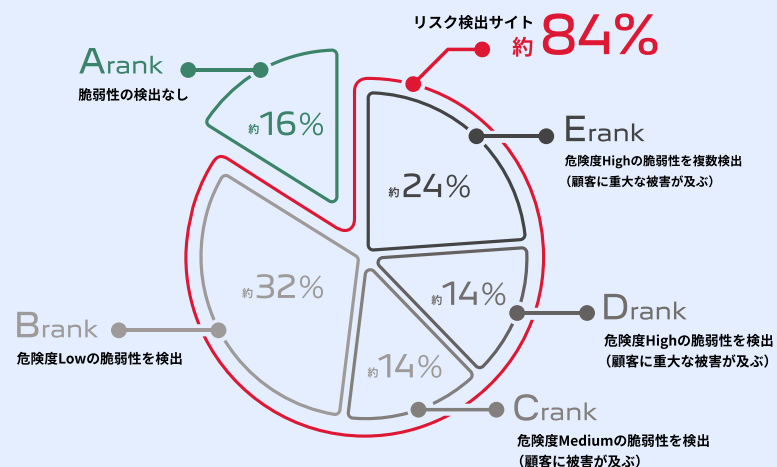


テスト・品質向上支援ツールの詳細については、当社ホームページ サービスサイトをご覧ください。

<https://service.valtes.co.jp/s-test/tool/>

脆弱性診断を始めとしたセキュリティサービスの拡充

脆弱性診断



※2020年1月～2020年12月までに当社がセキュリティ診断を実施したサイトの一部から抜粋

診断結果の約84%のサイトで危険なリスクが検出された！
1,000件以上の実績により、
ツールでは見つからない脆弱性※も多数検出

※ なりすましが出来てしまうアクセス制限に関する脆弱性

セキュリティサービス



ペネトレーションテスト（侵入テスト）サービス

セキュリティ対策の専門家が、実際に攻撃者と同じ視点・手法でシステムに侵入を試み、リスクや脆弱性を評価



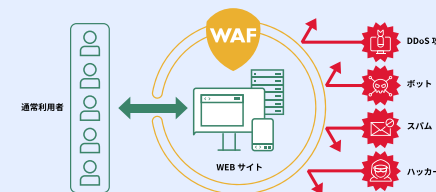
クラウド診断サービス

クラウドプラットフォームやシステムの利用状況におけるセキュリティ上の問題を診断



セキュアプログラミングのソフトウェア品質セミナー

安全なWebサイト構築のためのセミナーを実施



WAF PrimeWAF

Webアプリケーションの脆弱性を悪用した攻撃からサイトを保護するセキュリティ対策サービス。セキュリティ診断・脆弱性診断に実績があるバルテスが提供する新たなクラウド型WAFサービスPrimeWAFを展開。

当社が主力とする
品質向上サービス
と併せて
セキュリティに関
するトータルな提
案が可能



セキュリティサービスの詳細については、当社ホームページ サービスサイトをご覧ください。 <https://security.valtes.co.jp/>

自社の強み⑥ 生成AIテスト設計ツール「TestScape」

ソフトウェアテスト専門事業者としての豊富な実績を活かした生成AIテスト設計ツール「TestScape」

蓄積された実績とテスト基準

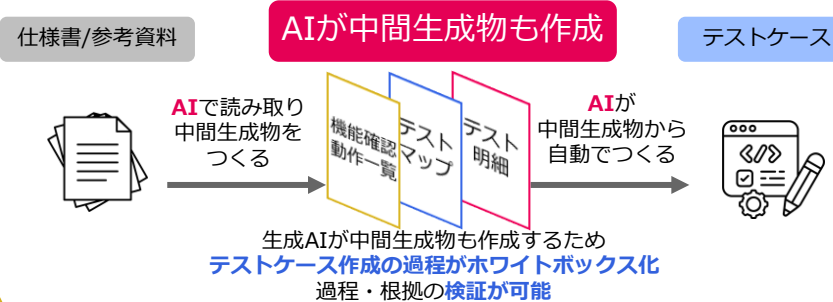
- 直近年間約4,000※1プロジェクト、1,200社以上の導入実績
- ソフトウェアテスト専門事業者として20年を超える業歴・膨大なテスト実績
- プロジェクトを通じた様々な業界におけるナレッジの蓄積
- ISO/IEC/IEEE 29119※2準拠テンプレート
- 当社がソフトウェアテストを主軸に、品質向上・生産性向上に関連する知見を体系化したテスト進行基準「QUINTEE®※3」

※1 ツール案件を含む
※2 ISO/IEC/IEEE 29119とは、ソフトウェアテストの統合的な国際規格のこと。ISO、IEC、IEEEという3つの標準化団体が合同で策定しているため、この名称で呼ばれる
※3 QUINTEE®とは、当社がソフトウェアテストを主軸に、品質向上・生産性向上に関連する知見を体系化したもの

当年3月
生成AIテスト
設計ツール
「TestScape」
プロトタイプ版
を自社実装

中間生成物の作成で生成AIの透明性確保

バルテスの生成AI 過程や根拠が説明できる！



他の生成AI 過程や根拠が不明



他の生成AIの場合、テストケースのみ吐き出す仕様のものが多く、裏付ける中間生成物が存在しないブラックボックス

高精度・透明性の
高い生成AIテスト
ツールの開発で
競争優位

ツールの利用で
生産性向上

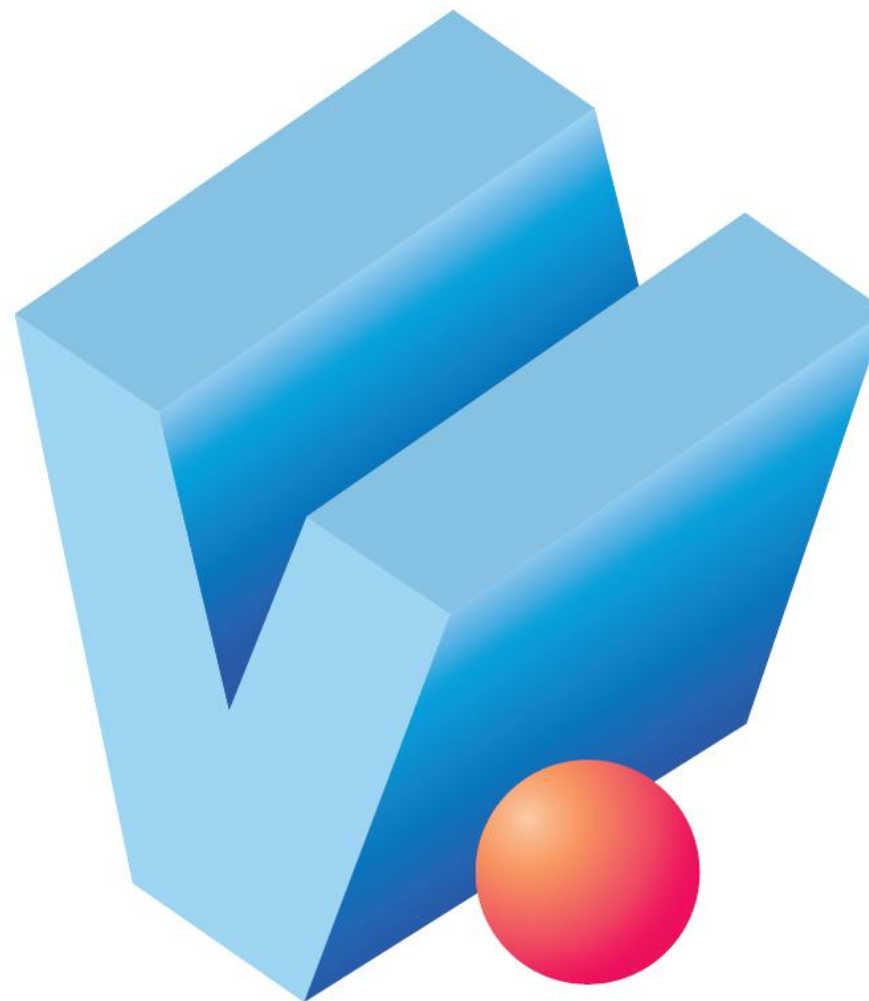
8

会社概要

FOR QUALITY CONFIDENCE

品質向上のトータルサポート企業

バルテスグループは、品質向上のトータルサポート企業として、
ソフトウェアテストをはじめ、さまざまなサービスを提供しています。
世の中のあらゆるものに組み込まれるソフトウェアの品質を守り、
向上させることで、安心・安全な世界の実現に貢献します。



「品質向上のトータルサポート企業」経営方針に掲げ、事業を展開

会社名	バルテス・ホールディングス株式会社
会社設立	2004年 4 月 ※2023年10月持株会社体制移行により社名変更
上場	2019年 5 月 東証マザーズ (現 東証グロース 証券コード：4442)
本社住所	大阪市西区阿波座 1 - 3 - 15 (大阪本社)
事業内容	ソフトウェアテストサービス 品質コンサルティングサービス ソフトウェア品質教育サービス セキュリティ・脆弱性診断サービス
グループ会社	バルテス株式会社 バルテス・イノベーションズ株式会社 (4月1日バルテス・モバイルテクノロジー株式会社がフェアネスコンサルティング株式会社を吸収合併) 株式会社アール・エス・アール 株式会社ミント 株式会社シンフォー VALTES Advanced Technology, Inc. (Philippines) タブュラ株式会社
従業員数	963名 (2025年 9 月末時点 グループ 8 社計)
内、総エンジニア数	831名 (2025年 9 月末時点 グループ 8 社計)
総資産	6,489百万円 (2025年 9 月末時点 グループ 8 社連結)

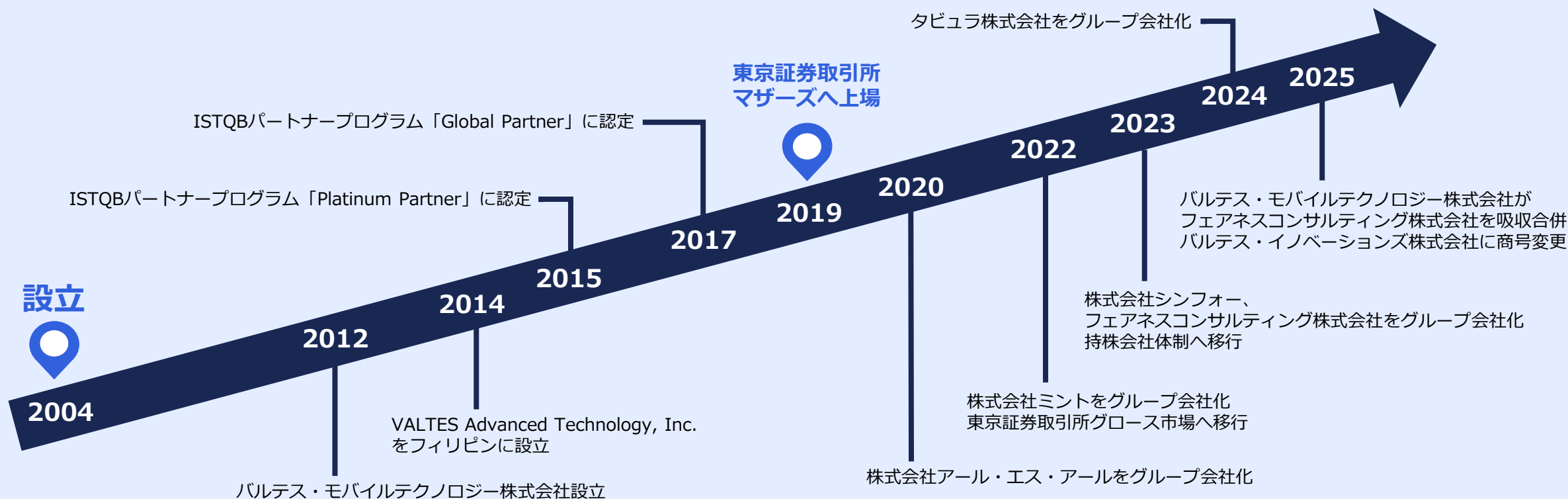


代表取締役会長兼社長

田中 真史
Tanaka Shinji

2004年4月、設立。ソフトウェア品質に関わるサービスを提供。

ソフトウェアテスト専門会社として、年間4,000件※以上のプロジェクト実績



※ ツール案件を含む

持株会社（当社）



グループ経営管理機能／教育関連機能

事業グループ会社



事業推進・執行機能

サステナビリティ委員会の設置

サステナビリティに係る取組みや、環境・人権方針の策定、
当社グループへの浸透と進捗状況のモニタリングを実施



社外取締役の積極登用

高度な専門性を持つ社外取締役の登用で、
当社グループの成長加速とガバナンスの強化へ



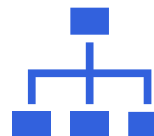
**取締役7名中、
過半数の5名が社外取締役**

監査等委員会設置会社への移行



取締役の職務執行の監査等を担う監査等委員を
取締役会の構成員とし、取締役会の監督機能を強化

持株会社体制への移行 執行役員制度の導入



持株会社及び各事業会社の権限と責任を
明確化及び管理機能の集中化、
迅速な意思決定と適切なモニタリングの両立と、
経営重要事項の決定・監督を担う取締役会と執行責任を負う
執行役員との役割分担明確化及び機能強化を目指す

Create Wellness

人と社会に品質を

当社グループでは、「人と社会に品質を」を合言葉に、豊かな知見から生まれた教育プログラムと安心・安全を支えるサービスの提供を軸としたサステナビリティ活動を推進しています。

次の時代を担う人材（Employee）を育成することで、環境（Environment）と社会（Society）への取り組みを加速し、コーポレート・ガバナンス（Governance）体制を強化していく「E+ESG経営」を実践しています。



取り組みの詳細については、当社ホームページ サステナビリティサイトをご覧ください。

<https://www.valtes-hd.co.jp/sustainability/>

バルテスグループ×SDG s



ご留意事項

本資料には、当社グループの現在の計画や業績見通しなどが含まれております。

これらの将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに
当社が計画・予想したものであります。

実際の業績などは、今後の様々な条件・要素により、
この計画・予想などとは異なる場合があります、
この資料は その実現を確約したり、保証するものではありません。
なお、この資料への公認会計士、監査法人の関与はございません。





VALTES
— GROUP —

FOR QUALITY CONFIDENCE